

第 23 回映像メディア英語教育学会

九州支部研究大会

The 23rd ATEM Conference of Kyushu Chapter

[日時 Date] : 2021 年 9 月 4 日 (土) 13:00- (September 4th, 2021)

[会場 Place] : オンライン開催 (Zoom Web Conference)



第 23 回映像メディア英語教育学会九州支部研究大会

[日程 Date] : 2021 年 9 月 4 日 (土) (September 4, 2021)

[会場 Place] : オンライン開催 (Zoom)

ミーティング ID: 895 7875 0627 パスコード: suF2NF

[詳細 Notes] : セキュリティ上、入室時は氏名 (フルネーム) の表示をお願いします。

Please indicate your Full Name when entering for security reasons.

13:00~13:10 開会式・支部総会 Opening Ceremony

- ・開会のあいさつ 支部長 : 吉村 圭
- ・2020 年会計報告&2021 年度予算案 事務局長: 石田 もとな
- ・2022 年度運営組織の承認

13:15~14:15 シンポジウム Symposium

映画で育む批判的思考力ー映画音楽に映し出された社会問題

秋好 礼子 (福岡大学)
砂川 典子 (九州ルーテル学院大学)
吉村 圭 (九州女子大学)

14:20~15:45 研究発表 Sessions

Session1 14:20-14:45

Public address における呼びかけの言葉に見るジェンダー意識の変化について
石田 もとな (鹿児島女子短期大学)

Session2 14:50-15:15

学生を諦めさせない授業 ー専門内容で知的好奇心を、映画でやる気を刺激するー
南部 みゆき (宮崎大学)

Session3 15:20-15:45

アメリカ映画の Disclaimer (免責事項) とその周辺の分析ー異文化理解の試みー
兼本 円 (琉球大学)

15:50~ 閉会式 Closing Ceremony

- ・閉会のあいさつ 副支部長 : 秋好 礼子

映画で育む批判的思考力－映画音楽に映し出された社会問題

秋好 礼子 福岡大学

砂川 典子 九州ルーテル学院大学

吉村 圭 九州女子大学

司会：松尾 祐美子

本シンポジウムでは、ミュージカル映画や映画の挿入歌といった、映画における「音楽」の教育的価値を考える。とりわけ映画音楽／音楽映画から、そこに映し出される社会的問題を見出し、それが英語圏文化・文学教育の中でいかに生かされているのかについて、実践報告を交えた考察を行う。

まず秋好は、1960年代のボルチモアを舞台とし、人種問題を一つのテーマとしたミュージカル *Hairspray* の脚本（2002年初上演、原作は1988年公開の同名映画）と同名映画（2007）を取り上げる。今回の発表では、ミュージカル版と映画版では全く違うシーンで使われている、アフリカ系アメリカ人の積年の想いを訴えるメッセージ・ソングを中心に考察する。2020年の Black Lives Matter (BLM)運動の拡がりにより、日本の学生たちも改めて人種問題について考えたようであるが、デモ中によく流された音楽が単なる BGM ではなく、メッセージ・ソングであることにはあまり気づいていない。*Hairspray* 中での歌の効果的な使い方を考察することで、人種問題と歌の密接な関係に学生の目を向けるきっかけとしたい。

砂川は、同様にミュージカル映画を題材に、ヴィクトリア朝を代表する小説 *Oliver Twist* (1837-39) のミュージカル映画版 *Oliver!* (1968) を扱う。英米文化や英米文学でのゼミにおいて、学生が自ら課題を見つけ、レポートを書いたり、プレゼンテーションをしたりするのは決して易しいことではないが、彼らが研究テーマとしてイギリスを選択した場合、ヴィクトリア朝の英国はテーマとして人気である。この時代の国家的繁栄と悲惨な民衆の生活という矛盾に対する学生の気づきを促すために *Oliver!* をよく利用しているが、学生は、この映画に描かれた子どもの貧困への認識から始まって、さらに当時の状況へのリサーチをする過程で、徐々に当時の英国の政治的・社会的状況や、社会保障制度といった現在にも通じる課題を見つけていくことが出来る。本発表では、*Oliver!* を用いた英米文化・英米文学研究の一例を紹介したい。

吉村は、砂川同様英文学作品のアダプテーションを用いた取り組みについて発表を行う。イギリスの小説家 A. A. Milne の *Winnie-the-Pooh* 及びディズニーによる一連の映像化作品について、とりわけジェンダーの観点で詩／歌詞に着目した例を紹介する。まず原作については、2冊の Pooh 作品の冒頭に添えられた Milne から妻 Daphne への謝辞に当たる詩を見る。そして Milne によって投影された Daphne の理想化された母親像と、伝記作家や息子 Christopher 本人によって語られる実際の人物像との違いを見る。ディズニーによる映像化作品については、作中唯一の女性キャラクターである Kanga に着目をし、その特性が顕著に表れた *Piglet's Big Movie* における挿入歌の歌詞について考察を行う。本発表では、原作／アダプテーション作品から見えてくる「女性」の描かれ方の問題について、特に講義での学生の反応を交えつつ紹介したい。

【発表 1】 Session1 14:20-14:45

Public address における呼びかけの言葉に見るジェンダー意識の変化について

石田 もとな 鹿児島女子短期大学

司会：福田 浩子

日常生活の中においても、映像メディアにおいても、様々な場面で大勢への情報伝達が行われている。政治家の演説、テーマパークや交通機関などにおいては、場面に応じた様々な呼びかけの言葉が使われてきた。自身がかつて身を置いた航空業界においては、「皆様」と呼びかける言葉は、Ladies and gentlemen が定番であった。しかし、近年は多様性が重んじられ、ジェンダーへの配慮が叫ばれるようになったことから、呼びかけの言葉も変わりつつある。今まで使われてきた呼びかけの言葉と今後使われる言葉について、映画や YouTube の動画から新旧の Public Address を複数参照し、ジェンダーへの配慮の観点からの検証を行いたい。

【発表 2】 Session2 14:50-15:15

学生を諦めさせない授業 一専門内容で知的好奇心を、映画でやる気を刺激する一

南部 みゆき 宮崎大学

司会：進藤 三雄

2021 年の前学期に担当した看護学科 1 年生の授業での映画の活用例を紹介する。英語に苦手意識を抱く看護学生は少なくない。そのため、看護学生の授業で発表者が常に意識するのは、英語への抵抗を少なくすることである。授業では、医療専門内容について毎回英語で読ませ、英語「で」学ぶことを前提としているため、難解な用語も頻出する。そこで、学生に行き詰まりや限界を感じさせないように、関連する映画を授業内で併用した。今回使用した映画は、アメリカ映画『私の中のあなた』(2009)・『アリスのままで』(2015) の 2 本である。学生のコメントシートの分析から、医療をテーマにした映画は学生の興味を駆り立て、英語が苦手な学生も最後まであきらめずに比較的高い意欲を持って取り組めたことが明らかとなった。英文ハンドアウトで学ぶ時間、映画から学ぶ時間、これらの配分を 50/50 となるように調整したことも、やる気を落とさせない要因の 1 つとなった可能性がある。

【発表3】 Session3 15:20-15:45

アメリカ映画の Disclaimer（免責事項）とその周辺の分析—異文化理解の試み—

兼本 円 琉球大学

司会：進藤 三雄

Disclaimer とは通常映画終了後に明記されている文のことであるが、映画鑑賞者にとっては作品の内容こそが肝心であるため、「免責事項」がスクリーンに登場するまで席に座していることは殆どない（内容の「余韻を楽しむ」ためにも、寧ろその場から離れることが自然なのかもしれない）。しかしながら、この「事項」を吟味すると、異文化理解のための貴重なデータ・教材であることが分かる。

発表者は以下の観点から「免責事項」とその周辺の分析を行った。

1. 人権侵害
2. 動物愛護
3. 環境問題
4. その他

その結果、「免責事項とその周辺」がアメリカ社会・文化理解を促進するための貴重なデータであることが判明した。